



ひっぴだより

No.9 2015.11.27

秋も深まった11月19日、おおきいくみで追分宿へ出かけました。馬のラッキーと森の中を歩き、神木で「ひっぴだより」の遊んだ一日。次の日のひっぴでは、四つん這いの馬に跨る人、その馬に乗せてもらっているどんぐりさん、馬が寝る厩(うま)や、落ち葉を山にして堆肥の場所までありました。そして丸太で木馬のラッキー作り。「ラッキーにわよとすりすうのてね」と書いてある木馬の前には、追分のラッキーと同じようにバケツの水とえさの葉っぱが置いてありました。

ラッキーは北海道生まれの小豆色ポニーです。安曇野で大きな馬二頭と一緒に暮らしていましたが飼いが急死。馬肉にされる肉屋のトラックに乗るのを嫌がる姿を見た猛さんが引き取り、追分に連れてきました。「命拾いしたから名前をラッキー」と命名した飼いが荒井猛さんには昭和6年生まれの子4才。小豆色馬から農畜と畜産をやる両親を手伝い、すうと追分宿で暮らしてきたおじいちゃんです。今でも広大な田んぼで一人で作り、野菜や漬物作りの名人。昔は牛20頭、羊40頭、うさぎ200羽、ヤギや鶏、馬や猪木たちと一緒に生活していたとすうは、田んぼを作り狩りをする暮らしの中で、動物たちは欠かすことが出来ず生きていた。

たまたま、オムネ田んぼの作り中で、ヤギや羊がいたからあせ草や野菜屑を食べてくれた糞の堆肥にたまりの土から、循環がうまく回るだろうなあと思っていたので、近所で馬を飼っている方から聞いて早速「ヤギか羊を飼ってみたいんです。」と訪ねてみました。厩からはつばら子と子鹿のラッキーがのびのびといて、そこで「羊の毛刈りの道具も揃っているから見ごらん」と色んな道具を見せてくれた。昔から追分で飼われていた動物たちの暮らしのお話に見入ってしまった。羊や馬は羊一頭毛刈りして金銭的に売ると、ウイードの管理一着分の土地が引きかえにもらえる。冬には2〜3頭を肉にして軒先に干してコブコブに凍らせ、お肉の貴重品で味噌やソースを作るとか。「ヤギもウサギも羊は群れで暮らすから性格は穏やかだし、毛もとれるから面白いよ。近くの田んぼを貸すからそこで飼えばどう？」とすうは決まりました。今では田んぼのそばで毎日厩に通うラッキーともすうが仲良くなり、毎朝の散歩をいっしょに歩いているように感じました。

昔、お米がとれるかといわれていた極寒の軽井沢では、とてつもない寒さで農家の生活は苦しい大変だったとすうは、でも羊や馬、化学肥料や農薬の開発の進歩、お米も寒い地域で採れる品種改良がされて、やると追分でもおいしいお米が採れるようにしたと、すうは「うまい米をうんと食べるととてつもない寒さで、それではうんと寒い思いをしてきたから。」今では自然農法を学んできて農薬や化学肥料のマイナス面を聞くことが多くなったとすうは、昔は厩の裏で雨風をしのいで、寒い寒さの中で田んぼを耕していた追分の先人たちのことを思うと、それらを悪く言えないと思ってしまう。自然農法を学んできたすうは師匠が「その土地にはその土壌や気候に合ったやり方があるから、農業に答えやマニュアルはないよ。一人ひとりが作物に関わりながら一番いいやり方を探せばいい。」とおっしゃったことを思い出します。追分地でも農家の方向転換で田んぼを売られずにお宅が増え、木耕田が目立っています。今までの40代田町塩野より寒く標高の高い追分でもお米がとれるかわかりませんが、猛さんに聞いたら色んなやり方を試してみたいと思います。塩野の田んぼでは田んぼの管理に暖かく見守っていただけて、ひっぴを毎年楽しく作ることも出来るように。その感謝の思いを引き継ぎたいから来年度からは追分の田んぼへ出かけ、地元の方や動物とも交流したいから、またみんなでお米を作っていきますよ。

：美穂子

おおきいくみだより

二学期も後半になり、おおきいくみの人たちは、ひとつひとつのプログラム楽しんでいける姿が見られます。清里キャンプや電車の旅、登山...と特別なカリキュラムを持ちつつも、いつものおおきいくみでは、体育遊びや集団遊びなどのルールのある遊びも楽しんでいます。11月の初めにライジングフィールドに出かけました。ライジングフィールドでは、広い芝生で思い切り走れるということから、毎回リレーをやっていますが、今回、この場所ならではの遊びをしようと「ひっぴ運動会」を企画しました。運動会前日、くりおおりの人たちに運動会の種目について相談しました。何度も足を運んでいるあの場所ので出来ることをイメージしながらアイデアが浮かんでくるでしょう。どんどん面白い種目が出てきました。「体操(ダンス)」「リレー」「おすもう」「つぼみき」「早歩きリレー」「なわとび」「そりに木公ぼりさんを乗せてひっぱるリレー」「そりにボールを乗せてひっぱるリレー」「サッカー」「ごろごろ競争」「どんぐりがえり競争」です。この出た種目をすべてやってみることにしました。そして運動会当日、チームを発表。3チームに分かれ、丸くなって話し合いをしました。決めることは「チーム名」と「この運動会をどんな気持ちでする?」ということ。

- 「ブルーソラダチーム」 理央子・真央・遥人・真実・大輝・礼・果乃・珠賀
気持ち～「みんなで力を合わせる」「みんなが仲良く」「みんなと一緒にやろう!」
- 「サッカーおすもうチーム」 俊林・朝次朗・心美・蒼空・空太・立・颯希
気持ち～「がんばる気持ち!」「星みたいな気持ち...(?)」
- 「げんたいそりチーム」 聖・明日香・陽麗・武蔵・朧・アリム・律・咲美
気持ち～「チーム名が決まらずタイムオーバーでた...」(敬称略)

「リレー」はいつもライジングフィールドでやっているのもみんな自信満々です。「早歩きリレー」は早歩きというものがわからない人もいるので、くりおおりの人が見本を見せてあげました。この結構みんな上手な早歩きが出来て、面白くて盛り上がりました。「そりに木公ぼりさんを乗せるリレー」は各チームにいる木公ぼりさんに声をかけます。乗るのは少し小布いとか自信がないなど、見ていたい人は自分のチームの応援です。「リレー」から始まりひとつずつすべてを楽しんでいこううちに、種目によっては苦手なもの、自信のないものが出てきます。そういう時は見ていて友だちの応援をすることが出来るということをおおきいくみの人たちは知っています。「やらなくてはいけない」は無く「これは出来ないかも...」「自信がないな...」と立ち止まってしまった時、やってみようよ!と無理に誘うこともはげます。でも「やらなくていい」ではなく「じゃあ、応援よろしくね!」と友だちも声をかけてくれます。そしていつか友だちの姿を見ているうちに「やってみようかな...」と自分から一歩踏み出すのを待っています。おおきいくみの人たちも今までそうして「見える時間」を大切にしてきました。今、おおきいくみの人たちが自信を持ってひとつひとつのプログラムに挑戦し、楽しんでいるのもこの時間を大切に積み重ねてきたからこそ今があるのです。「ひっぴ運動会」だけでなく、これからのおおきいくみプログラムの中でも丁寧なひっぴひっぴの「見える時間」をもつことと「やってみようかな」の気持ちを待つことを大切にしていきたいと思っています。

：美穂子

お知らせ

今年もいよいよ 師走を迎え時。子どもたちにとっては 待ち遠しいクリスマスや 和正月が続きますね。待ち遠しい気持ちで中々(中々) ぶくらませられ時です。

・保護者会のお知らせ

日時 12月2日(水) AM.9時20分～
場所 バイブルキャンプ XINホール

・12月の おんたいてい は 16日(水) です。

・「小さなクリスマスの集い」のご案内

日時 12月18日(金) PM.1時30分～2時過ぎ (1時25分～歌の練習)
場所 ひびの森 (バイブルキャンプ XINホール 玄関前でお待ち下さい)
子どもたちは、クリスマスの準備を少しずつ始めています。クリスマスの絵本や歌で去年程のクリスマス思い出を思い起こしたり、新しいクリスマスにワクワクしている様子です。小さな集いですが どうぞいらして下さい。充分暖かい格好をお願いいたします。

・12月は 身長・体重 計測月です。よろしくお願ひいたします。

おおきくおのりの方へのお知らせ

・ひびのバードッグがやってきました。ピッキオのバードッグ「タマ」のお仕事を通して 自然の理解につながる機会になったら...と願っています。保護者の方も一緒に参加していただけます。保育時間外です。ご用事のある方は、お帰り下っても大丈夫です。

日時 12月3日(木) PM.2時～2時30分頃
場所 ひびの森 (バイブルキャンプ XINホール 玄関前でお待ち下さい)

・12月の アート は 14日(月) です。寒い季節に入ります。今年度最後といたします。

・子ども達のクリスマス準備は 大忙しにおついでです。12月は 料理の日はありませんが、どこかで 特別デザートを作りたいと考えています。

田んぼで

12月 感謝のお餅つき。田んぼの活動があり、お餅つき。春、種まきと苗床に蒔いてから約半年、田んぼのお餅つき。お餅つきは、美味しいお餅をいただきます。今年も柳代田町瑞穂野の田んぼを栗田家・齊工家で作っています。その場所をひびの森と紅事のフィールドとして9年間も使わせていただきました。田んぼを種まきの文化や、ひびのお餅つきがどうもやりました。作業も重なり、子ども達の予定を優先してね。いつもお餅つきは、高田通をきかされて栗田温美さん。急いで近所の農家の倉庫に逃げ込ませてもらいました。「田んぼに石を投げるとね」とお叱りつけられたり、道を踏んで、近所の農家のおじいちゃんたち。駐車場も近所の方々が使われて下された。たくさんの方に温かく見守りいただき、これまでにひびのお餅つきを続けてこられたこと、ありがとうございます。先日、後藤さんと朝次郎さんが「もう俺たち田んぼに帰ってこようかな?」「子どもはわんざの新しい田んぼに遊びに行きたいよ?」「小学生になったら?」と話しているのを聞きました。また来年度もみんなでおいしいお餅つきができればいいな!

：美和子

ひびの森の木々の芽たち ～11月 サンショウ 山椒～

鮮やかな木々の葉も風が吹くごとに舞い落ち、すっかり静かな季節を迎えよう。木々は来年の春までしばらくの間 眠りの時を迎えます。冬の木々をよくみると、枝先にほっぺ(ほっぺ)と小さな芽のふくらみを見つけたことが出来ます。先日真実さんと遼人さんが「これなーに?」と持ってきたのはそんな枝先についた小さな芽(芽) ... 冬芽でした。「中に今度二人がおおくりさんになる時に葉っぱになる小さな赤ちゃんが入ってるよ。その茶色のかわをみて、中をみてらん。」と声をかけ二人で芽の外側の部分をはずすと、黄緑色の芽が入っていました。(ほんのりよい香りもしました。)

こんな風に冬は冬芽を楽しむのに絶好の季節です。集金袋に描いた11種類のイラストをみながら、ぜひ、同じ顔をして冬芽たちを探してみたい。冬をのりこえるたくましい姿、春を待つ喜びを感じることができるといいな。

今日ご紹介するサンショウは トゲが枝をばさばさして左右対称に ついているのでわかりやすい種類の1つです。

春に若葉は「木の芽」とよんで、みそ和えで食べたり、秋の実には粉にして、料理に使用したりと大活躍の木の芽。5月～6月には小さな黄色の花を咲かせます。それらの葉、花、実の元となる部分がすでにもう、固い殻に守られて、来年の春がくるのを待っているのです。
：菜の花

